

## 再評価結果（令和6年度事業継続箇所）

担当課：都市局 街路交通施設課  
担当課長名：服部 卓也

事業名 連続立体交差事業 JR武豊線（半田駅付近）	事業 区分 連続立体交差	事業 主体 愛知県		
起終点 自：愛知県半田市本町1丁目 至：愛知県半田市神明町3丁目		延長 2.6km		
事業概要 本事業は、半田市の中心市街地を南北に縦断する東海旅客鉄道武豊線約2.6kmを連続的に高架化して、9箇所の踏切を除却することにより、道路交通の円滑化を図るとともに、鉄道により分断された地域を一体化して、良好な市街地を形成するものである。				
H28年度事業化		H27年度都市計画決定		
H29年度用地着手		R2年度工事着手		
全体事業費	約250億円	事業進捗率		
計画交通量	約28%	供用済延長		
	約28%	— km		
計画交通量 103,989台時/日（踏切交通遮断量）				
費用対効果	B/C	総費用	総便益	基準年
	(事業全体) 1.2	(残事業)/(事業全体) 150/220億円 事業費：150/220億円 維持管理費：0.1/0.1億円	(残事業)/(事業全体) 271/271億円 移動時間短縮便益：242/242億円 走行経費減少便益：27/27億円 交通事故減少便益：2/2億円	
	(残事業) 1.8			
感度分析の結果 (事業全体) 交通量：B/C=1.2~1.2（交通量±10%） (残事業) 交通量：B/C=1.8~1.8（交通量±10%） 事業費：B/C=1.1~1.4（事業費±10%） 事業費：B/C=1.6~2.0（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.2~1.4（事業期間±20%） 事業期間：B/C=1.8~2.0（事業期間±20%）				
事業の効果等 ① 踏切遮断の解消 (都)前明山中蓮線 踏切渋滞長：最大450m（主要渋滞箇所(踏切)指定踏切)踏切渋滞の解消 (都)荒子線 踏切渋滞長：最大260m (都)土井山新居線 踏切渋滞長：最大230m（主要渋滞箇所(踏切)指定踏切)踏切渋滞の解消 ② 踏切事故の解消 ③ 魅力ある市街地の形成 区画整理事業等や街路事業と一体となってまちづくりを進めている ④ 歩行者・自転車の利便性・安全性の向上				
関係する地方公共団体等の意見 【半田連続立体交差事業促進期成同盟会（R5.11.7）】 【愛知県鉄道立体交差事業促進協議会（R5.11.2）】 ・連続立体交差事業の計画的な事業促進が図られるよう要望する。				
事業評価監視委員会の意見 事業継続を妥当と認める（R5.12.25）。				
事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等 周辺環境等に特に変化はない。				
事業の進捗状況、残事業の内容等 用地取得率100%、事業進捗率約28% 令和5年1月に仮線切替を実施した。				
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 全体の事業進捗は順調であり、計画どおり事業を進めることが可能と考えられる。				
施設の構造や工法の変更等 高架橋のパン割を変更することで、支障物件の移設対応が不要となり、コスト縮減を図った。今後も新技術の採用や工法の見直しによる工事コストの縮減等、総コストの縮減に努めていく。				
対応方針		事業継続		
対応方針決定の理由 事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。				

## 事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価値を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳と一致しないことがある。